

平成26年3月期第3四半期 決算説明資料

平成26年2月4日

【本資料に関する注意事項】

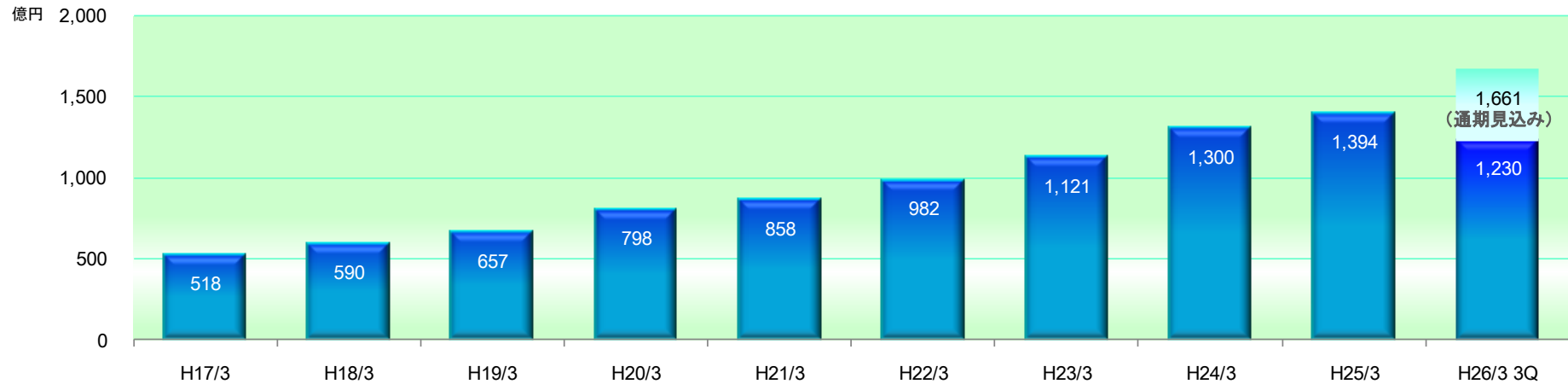
本資料は、本年1月31日に発表しました「平成26年3月期 第3四半期決算短信」の決算補足説明資料として、同期間の業績動向を補足説明することを目的として作成したものです。本資料に掲載されている日本調剤株式会社及び同社子会社の業績見込み、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、事業等のリスクや不確実な要因によっては、大きく変化する可能性があります。またその達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘のため作成されたものではありません。投資を行う際には、十分に投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。



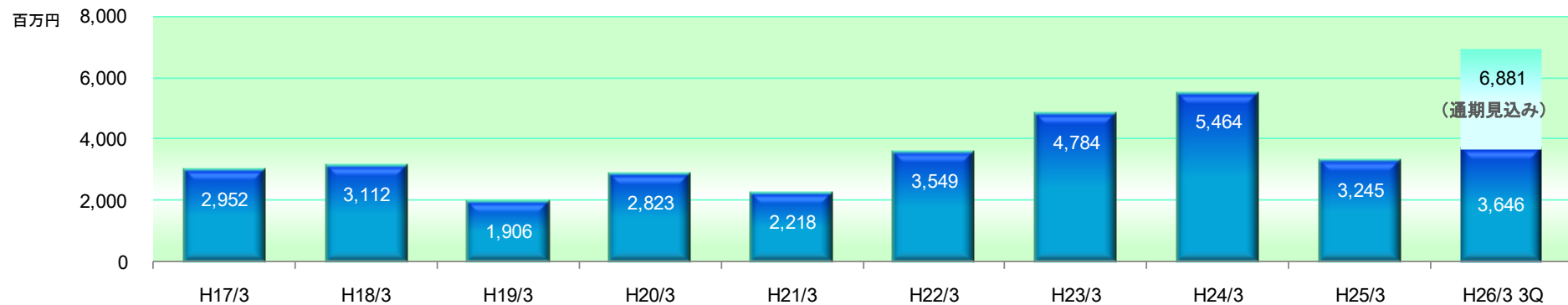
日本調剤株式会社

(証券コード 3341)

連結売上高推移



連結営業利益推移



今年度は調剤報酬と薬価の改定がなく、大幅増収増益。
 調剤薬局事業においては採算性を重視した出店により収益性も改善。
 医薬品製造販売事業においては長生堂製薬子会社化により業容拡大。

(単位:百万円)

	H24/4-12	H25/4-12	対前年同期 増減額	同 増減率	H26/3 通期予想※
売上高	103,596	123,077	19,481	18.8%	166,196
売上原価	87,752	103,941	16,189	18.4%	137,748
売上総利益	15,843	19,135	3,292	20.8%	28,448
販管費	13,803	15,489	1,685	12.2%	21,566
営業利益	2,039	3,646	1,606	78.8%	6,881
経常利益	1,632	3,234	1,601	98.1%	6,413
四半期純利益	△421	1,631	2,052	—	3,290

※平成25年4月30日付 公表数値

調剤薬局事業は処方せん単価の上昇と前年出店店舗が寄与。
 医薬品製造販売事業は長生堂製薬の子会社化による増収効果。
 医療従事者派遣・紹介事業は薬剤師派遣紹介を中心に順調に推移。

(単位:百万円)

	H24/4-12	H25/4-12	構成比	対前年同期 増減額	同 増減率
調剤薬局事業	97,521	108,574	88.2%	11,052	11.3%
うち一般薬等売上	1,390	1,448	1.2%	57	4.2%
医薬品製造販売事業	3,811	11,625	9.4%	7,814	205.0%
医療従事者派遣・紹介事業	2,263	2,877	2.3%	614	27.2%

※セグメント間及びセグメント内取引は消去しております。

昨年10月の「業績改善へ向けた取り組み」以降、経費削減を継続。
給与手当、研究開発費では長生堂製薬子会社化による増加分あり。

(単位:百万円)

	H24/4-12	H25/4-12	構成比	対前年同期 増減額	同 増減率
販 管 費	13,803	15,489	12.6%	1,685	12.2%
（給与手当）	2,183	2,461	2.0%	277	12.7%
（賃借料）	1,473	1,552	1.3%	78	5.3%
（消費税等）	4,055	4,277	3.5%	222	5.5%
（研究開発費）	832	1,112	0.9%	279	33.6%

主な増減要因

【販管費】
・給与手当
・研究開発費
(長生堂製薬連結による)

※構成比は売上に対する比率

(単位:百万円)

	H25/3末	H25/12末	増減額
流動資産	43,037	56,699	13,662
固定資産	52,102	60,976	8,874
有形固定資産	32,459	39,406	6,947
無形固定資産	9,423	10,706	1,283
投資その他	10,219	10,863	643
資産合計	95,140	117,676	22,536
流動負債	44,702	55,086	10,384
固定負債	35,735	44,811	9,076
負債合計	80,437	99,898	19,460
純資産合計	14,702	17,778	3,075
自己資本	14,702	15,728	1,026

主な増減要因

【流動資産】

- ・現金及び預金 +2,432
- ・売掛金 +4,490
- ・商品及び製品 +2,239
- ・原材料及び貯蔵品 +2,904

【固定資産】

- ・土地 +2,056
- ・建設仮勘定 +2,959
- ・のれん +1,250

【流動負債】

- ・買掛金 +5,466
- ・支払手形 +2,466
- ・1年内償還予定の社債 +7,092
- ・1年内返済予定の長期借入金 $\Delta 7,076$
- ・短期借入金 +2,150

【固定負債】

- ・長期借入金 +14,467
- ・社債 $\Delta 7,000$

【純資産】

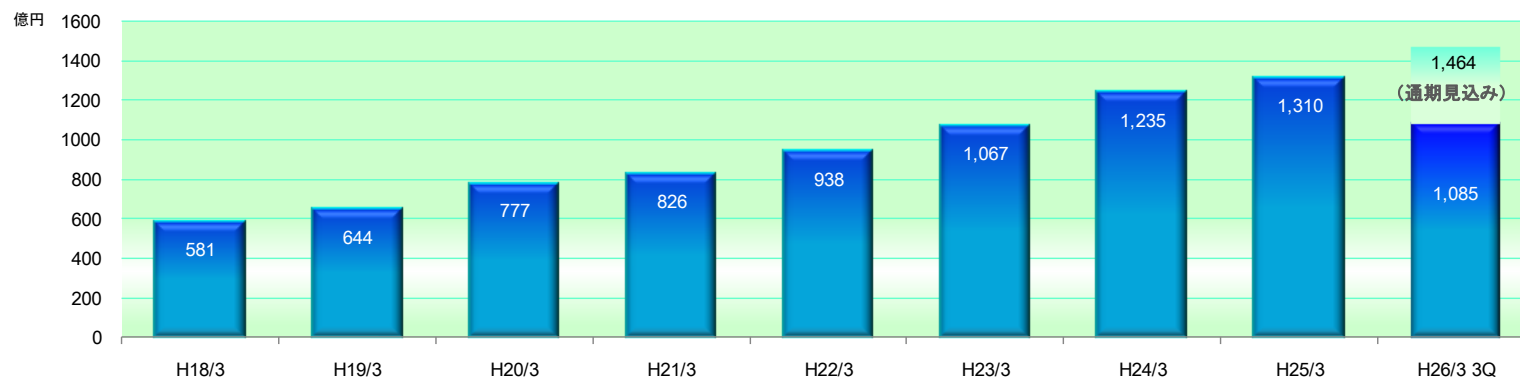
- ・利益剰余金 +1,124

(単位:百万円)

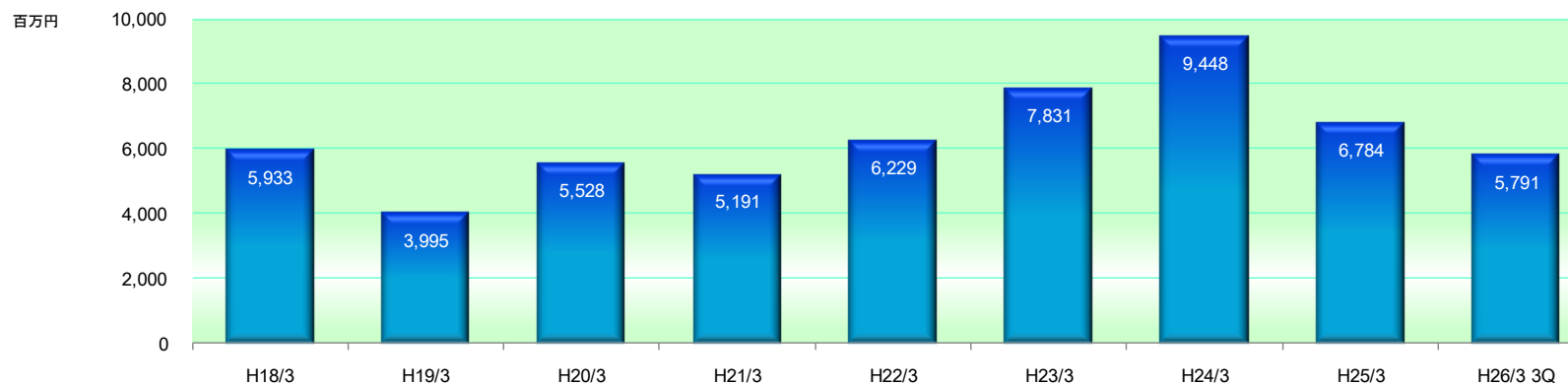
	H24/4-12	H25/4-12	増減額	増減率
売上高(連結消去前)	97,521	108,575	11,053	11.3%
営業利益	4,679	5,791	1,111	23.7%

(※セグメント内取引消去後)

セグメント売上高推移



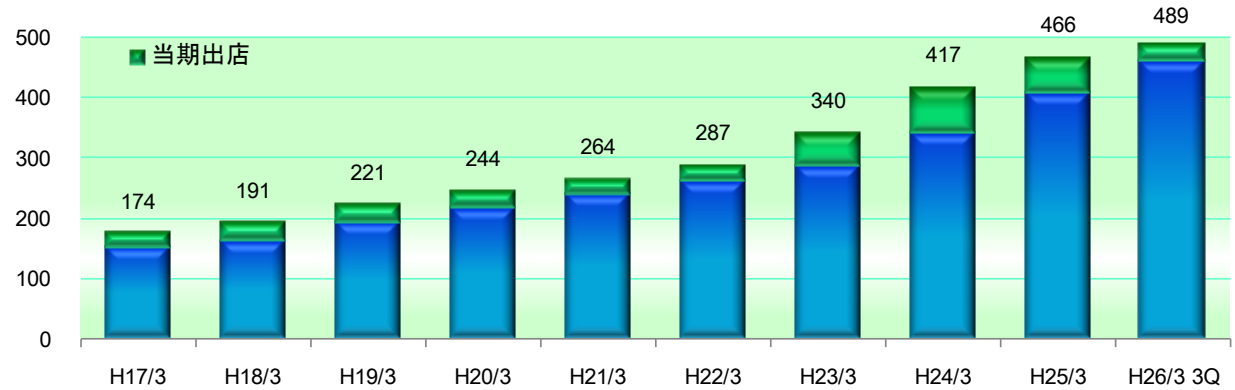
セグメント営業利益推移



		H25/4-12 実績
出店数		30
閉店数		7
総店舗数(12月末)	※	489

※物販專業の1店舗を含む

各期末店舗数推移



当四半期出店

10月出店	
旭川薬局	北海道旭川市
馬喰町薬局	東京都中央区
表参道薬局	東京都渋谷区
花咲薬局	山梨県大月市
神大前薬局	兵庫県神戸市
北播磨薬局	兵庫県小野市
高取薬局	福岡県福岡市

12月出店	
つくば西大通薬局	茨城県つくば市
つくば西大通東薬局	茨城県つくば市
慶應日吉薬局	神奈川県横浜市



	H25/12末 店舗数	H25/4-12 開店数	H25/4-12 閉店数	H25/3末 店舗数
北海道	44	2	1	43
東北	39	0	0	39
関東	245	16	4	233
うち東京都・神奈川県	183	12	3	174
甲信越	23	4	0	19
東海	37	3	0	34
関西・北陸	46	3	2	45
中国・四国	30	1	0	29
九州	25	1	0	24
計	※ 489	30	7	466

※店舗数に物販専門の1店舗(神奈川県)を含む

改定なき年度であり、処方せん単価上昇。
既存店についてもオペレーション改善により売上増加。

【日本調剤グループ 出店期別店舗調剤売上推移】

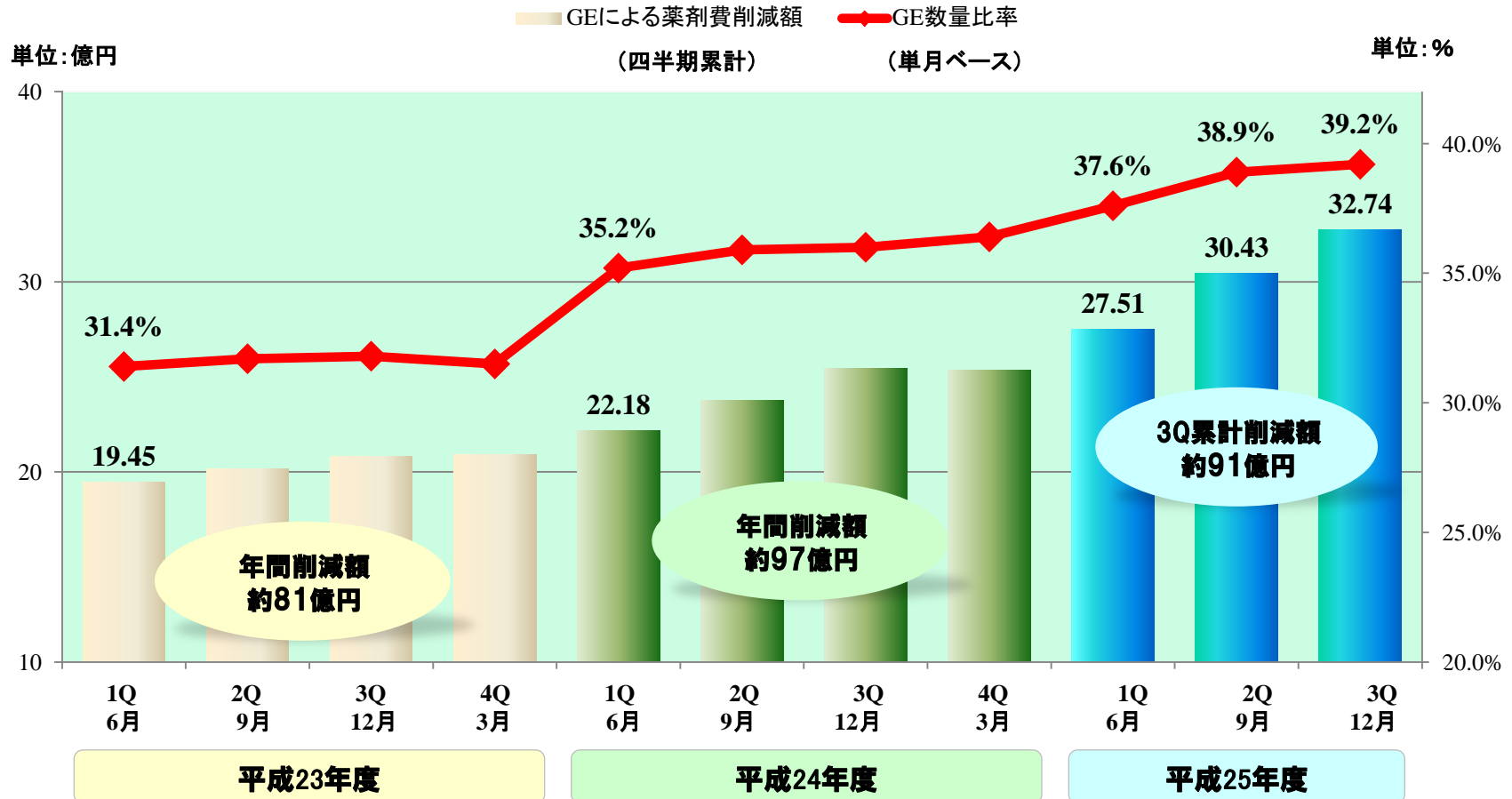
(単位:百万円)

	H25/12末 店舗数	H24/4-12	H25/4-12	増減額	増減率
既存店 (~H24/3)	405	94,595	101,622	7,026	7.4%
前期出店 (H24/4~H25/3)	54	1,140	3,752	2,612	229.0%
今期出店 (H25/4~H26/3)	30	—	1,478	1,478	—
その他	—	166	55	△110	△66.5%
計	489	95,902	106,908	11,006	11.5%

- ・ 調剤売上のみ(OTC等含まず)、発生ベース(返戻再請求を反映せず)
- ・ 期中閉局店舗分はその他に集計しております
- ・ 店舗数に前年度中に物販専業に転換した1店舗を含む

地域	H24/4-12	H25/4-12	前年同期比(%)
	処方せん枚数(千枚) (構成割合)	処方せん枚数(千枚) (構成割合)	
北海道	729 (9.3%)	730 (8.8%)	100.2%
東北	754 (9.6%)	770 (9.3%)	102.1%
関東	3,901 (49.8%)	4,211 (50.7%)	107.9%
うち東京都・神奈川県	696 (8.9%)	796 (9.6%)	114.4%
甲信越	198 (2.5%)	220 (2.7%)	111.1%
東海	480 (6.1%)	532 (6.4%)	111.0%
関西・北陸	942 (12.0%)	983 (11.8%)	104.3%
中国・四国	508 (6.5%)	510 (6.1%)	100.4%
九州	325 (4.1%)	346 (4.2%)	106.5%
合計	7,840 (100.0%)	8,306 (100.0%)	105.9%

一般名処方せんの増加、変更不可処方せんの減少が継続。
ジェネリック医薬品数量ベース使用比率の上昇基調も続いている。



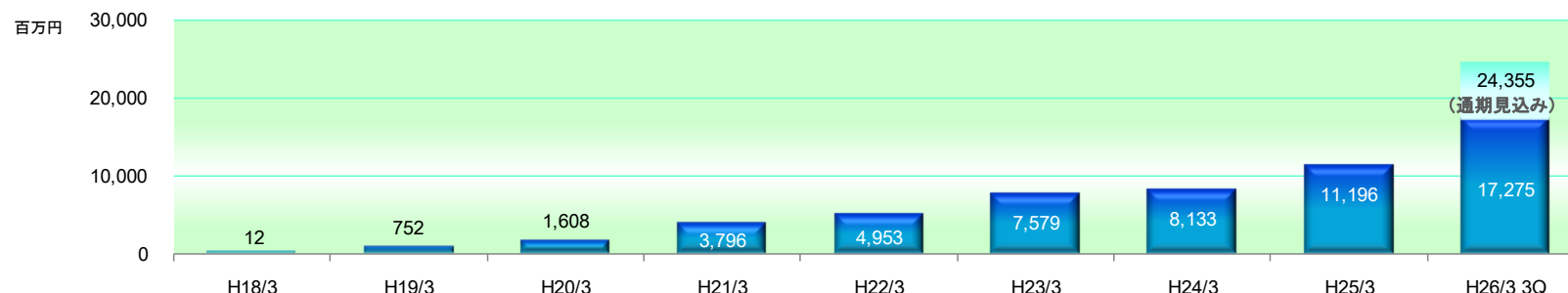
長生堂製薬の子会社化により、大幅増収増益。
重複品目の見直し、生産工場移管など効率化の取り組みを推進中。

(単位:百万円)

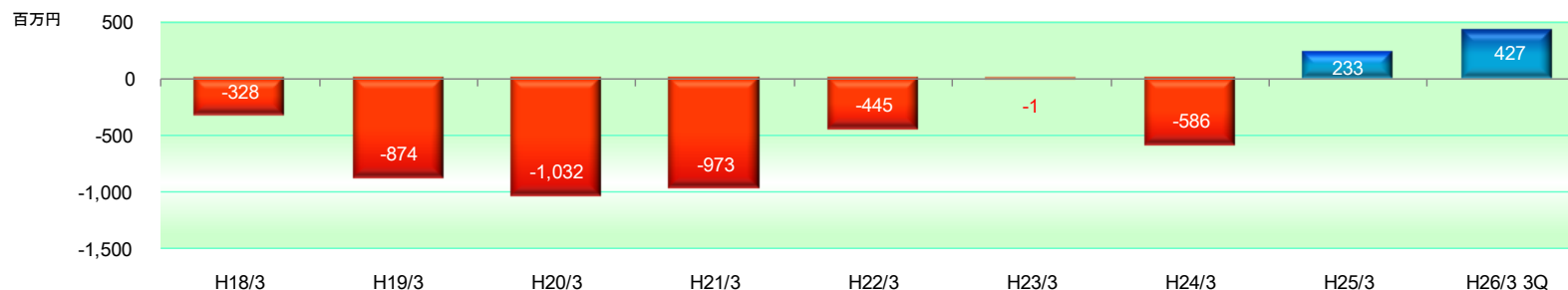
	H24/4-12	H25/4-12	増減額	増減率
売上高(連結消去前)	8,232	17,275	9,042	109.8%
営業利益	212	427	214	100.8%

セグメント売上高推移

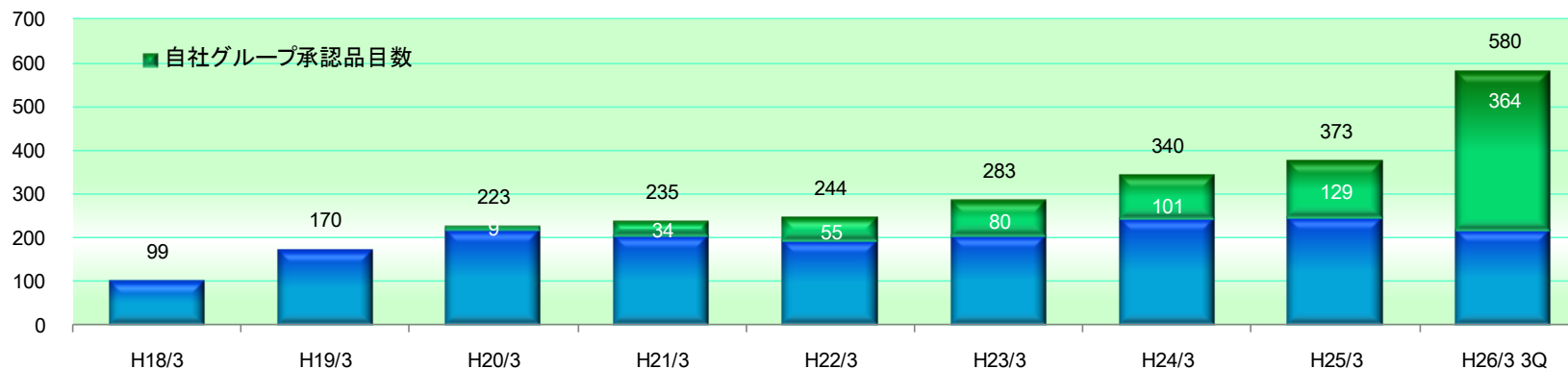
(※セグメント内取引消去後)



セグメント営業利益推移



販売品目数推移



平成25年12月 新規収載(15品目)

名称
ドネペジル塩酸塩OD錠10mg「JG」
ドネペジル塩酸塩錠10mg「JG」
フェキソフェナジン塩酸塩錠30mg「JG」
フェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「JG」
バラシクロビル錠500mg「JG」
アジスロマイシン錠250mg「JG」
アジスロマイシンカプセル小児用100mg「JG」
アジスロマイシン細粒小児用10%「JG」

名称
メコバラミン錠250μg「JG」
メコバラミン錠500μg「JG」
アレンドロン酸錠5mg「JG」
アレンドロン酸錠35mg「JG」
クエン酸第一鉄Na錠50mg「JG」
アムロジピンOD錠10mg「JG」
アムロジピンOD錠10mg「CH」

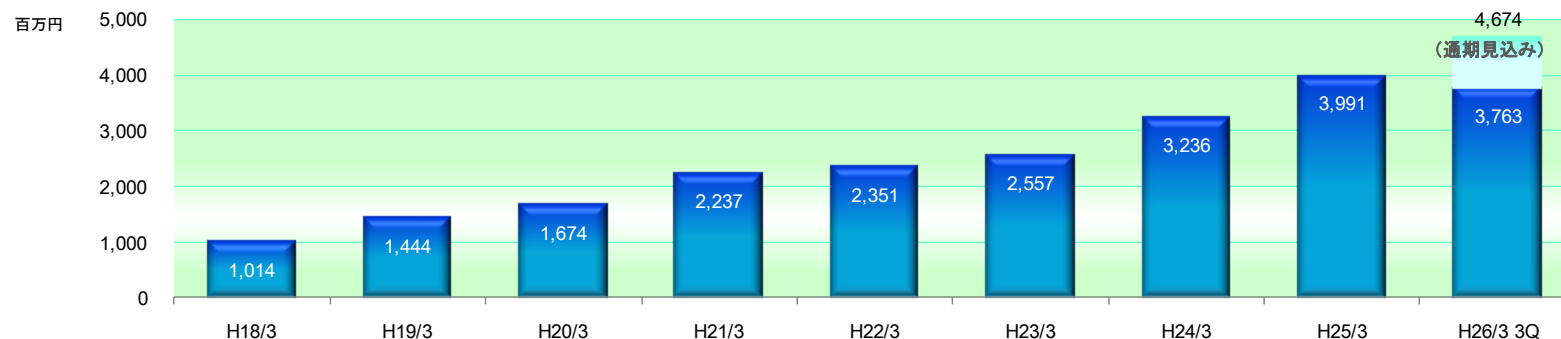
主力の薬剤師派遣を中心に好調、大幅増収増益。

(単位:百万円)

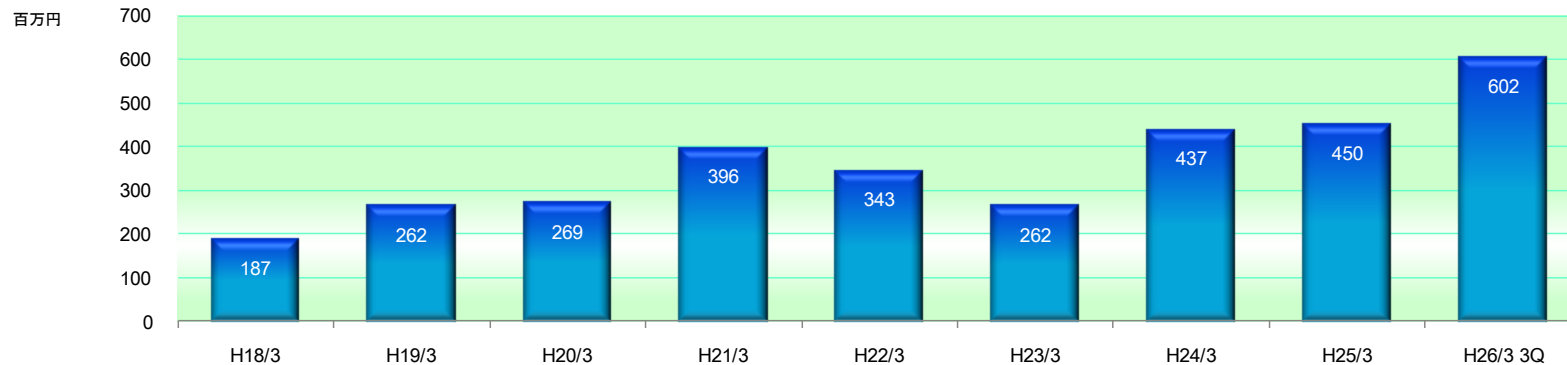
	H24/4-12	H25/4-12	増減額	増減率
売上高(連結消去前)	2,965	3,763	797	26.9%
営業利益	382	602	220	57.8%

セグメント売上高推移

(※セグメント内取引消去後)



セグメント営業利益推移



●IRお問い合わせ先

日本調剤株式会社 経営企画部 IR担当まで
〒100-6737 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
グラントウキョウノースタワー37F
電話: 03-6810-0800(代表)
E-Mail: ir-info@nichou.co.jp
IR専用ページ : <http://www.nichou.co.jp/ir>